

福島・いわき・小名浜支援レポート

浜通り医療生協・小名浜生協病院支援活動報告(全日本民医連) 2011年4月29日(金) №5

4月29日(金)の活動

◆浜通り医療生協組合員訪問による震災後の無事確認行動 + 困りごとお助け隊

◆行動の概要

午前:	行動参加:	35人(職員4人、支援22人)
	訪問件数:	106件
	対話件数:	79件
	お助け隊:	4軒→壁石撤去とドア開鍵、セメント流し台瓦礫撤去、畳上げ、飲料水届け
午後:	行動参加:	22人(支援者22人)
	被災地視察	小名浜港～三崎～永崎海岸～中之作港～江名港～合磯～豊間

祝日の4月29日(金)は、訪問隊とお助け隊に分かれて地域の中へ…。地震で崩れた石塀の撤去や、地震の影響で開かなくなってしまった室内のドアの修理。倒壊したセメント製の流し台の処理に、床下浸水した組合員宅の畳上げと板張りはずし。妊婦さんがいる組合員さん宅への飲料水の配達と、この間、組合員訪問で寄せられた要望に応える活動を一挙に行ないま



した。12畳の畳上げまでは良かったものの、板を割らずに錆びついた釘を抜く作業に手強い、これには本職の大工さんも一苦労。しかし無事、板張りはずしを完了しました。あとは3～4日乾燥させた後、石灰をまいて畳を敷けば修了です。この作業は大工さんをお願いしました。

◆◆ 訪問活動トピックス・被災者の声 ◆◆

- ◆岡小名地区。見た目は特に被害のなさそうな地域だったが、壁にひびが入っていたり、瓦が落ちていたりしていた。原発への不安が多く出され、土にさわりたくないで今年はガーデニングをやらないという方もいた。
- ◆岡小名地区。塀や屋根瓦が壊れた家が多い。初節句のお祝いも控えている。原発関連の記事を載せたチラシや新聞がほしい。
- ◆玉川東地区。3/15の福島原発・水素爆発時、だいたいの家族が東京や水戸などの親せき宅に1～2週間避難していた。原発に対する不安が大きい中でも、ここで暮らしていくしかないと思っている方が多かった。
- ◆玉川東地区。被害は比較的少なく、屋根や塀の破損が数か所。特別不足なものはなさそうだが、マスクや水など持参した支援物資は喜ばれている。医療生協の活動を地域に知らせる意味は大きい。夜は不安で、まだパジャマで寝たことがないという人も多かった。

【事務局短信】 ▼本日4/29(金)は祝日で休みのところ浜通り医療生協の専務と娘さん、組織部の佐藤主任と工藤さんが出て、組合員訪問やお助け隊に参加してくれました。▼茨城民医連から4名、会津医療生協から2人の職員がかけつけ、外来看護支援に入っていた東京・王子訪看STの松本敬子さんも合流し、賑やかに活動しました。▼難解だったのは畳上げの作業。床下浸水した組合員宅では、畳上げたあとの板張りはずしに悪戦苦闘し、遂には本職の大工さんまで投入。切りのいい所まで作業をすすめました。(田)